

静岡新聞 2023 年 8 月 30 日 付

## 論壇

東京大名誉教授(国際経済学)

伊藤 元重

都市鉱山について聞いたことがあるだろうか。銅や金などの金属は、従来は鉱山から掘り出した鉱石から採取してきた。それに代わる形で、携帯電話やパソコンで廃棄された電子部品から金属を取り出して再利用しようというのだ。携帯電話もパソコンもその大部分が都市で廃棄されるので、都市鉱山と呼ばれる。

電子部品を再利用するのは、資源の無駄をできるだけ出さないという意味では好ましいことだ。その重要性は以前から指摘されており、都市鉱山という言い方もだいぶ前からあったように記憶している。ただ、ここに来て、資源の再利用の重要性が一段と高まっている。

世界的にSDGsの呼称で、社会の持続可能性の重要性が叫ばれている。脱炭素、生物多様性、人権など、社会

# 都市鉱山活用 仕組み強化を

が持続的であるために必要であるというのだ。持続可能性の条件の中に資源循環が含まれている。金属だけでなく、プラスチックや紙類など、あらゆる資源を再利用しているというのが資源循環の考え方だ。

資源循環を進めていくためには消費者の行動も重要になる。店で購入するトイレットペーパーなどにも再生紙利用という表記があるものも多いが、消費者がそうした再生紙を利用するようになるほど、紙での資源循環が進むことになる。

さて、都市鉱山の話に戻るが、世界的なIT企業の中には、都市鉱山の利用を積極的に行き出す企業が出てきている。自社の供給するスマホに利用する材料は、都市鉱山を積極的に利用していると発信している。資源循環に真剣に取り組むことで、SDGsにしっかりと取り組んでいることを発信しようとしているのだ。

こうした動きは、今後ますます広がっていくだろう。資源循環は世界的な流れであり、それにきちっと対応しているかどうかは、企業の評価にもつながる。資源循環に積極的に取り組む企業の商品を消費者がより高く評価するよ

うになり、企業も資源循環に積極的に取り組む。このような好循環が回ることが望まれる。そのためには消費者の資源循環に対する意識が高まる必要がある。自分の利用しているスマホやパソコンがどれだけ真剣に資源循環に取り組んでいるのか関心を持つてほしい。

ところで、資源循環を進めていくためには、利用後の部品や材料を再利用の工程に回す仕組みを確立することが重要となる。いわゆる静脈物流と呼ばれる部分だ。原材料を製品に仕立てていく工程を動脈物流と呼び、利用済みの製品を分解して再利用する工程を静脈物流という。都市鉱山は静脈物流によって成り立っている。資源循環における静脈物流は電子部品だけでなく、自動車やプラスチック製品など、幅広い分野に広がっている。

都市鉱山は、資源の有効利用や環境を守るために重要なだけでなく、資源分野での安全保障にとっても大きな意味を持つ。レアメタルの多くは特定の国からの供給に依存し、安全保障上のリスクにもさらされている。そうしたリスクを最小化するためにも、都市鉱山をフル活用できる仕組みを強化する必要がある。